

言葉で感じる季節

冬で萌
くさもえ

冬、眠っていた植物たちが春の暖かさに誘われ目を覚ますこと、草が萌え出ること。また、その植物たちをさして呼ぶ名前。

ねぎにも花が咲きます。

つぼみであるねぎ坊主が出てき出すと畑で春の訪れを感じます。

お詫び

今冬の気温低下による霜害、日照不足による生育不良により、一時的に販売休止・減産体制へのご協力をお願いをさせていただいております。皆さまにはご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳ございません。

今月の
ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

畑での試練を越えて届ける貴重な冬葱

昨年の10月頃に定植を行い、亀岡市・京都市の畑で育った冬葱をお届け。昨年の夏は天候が不安定で苗が良く育たず、定植作業が予定通り進みませんでした。それを挽回しようと初期生育に力を入れ、例年よりも早く被覆を行いました。寒い日が続く、ねぎの成長に必要な温度が上がらず。いつもよりお届けできる量は少なくなっていますが、冬らしい季節を過ごした冬葱たち。餡もたくさんつまった美味しいねぎになっていることは、ねぎの表情を見て感じています。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信



春が訪れるまで乗り越える最後の冬

今年、亀岡の産地でも何度も降雪があり、雪が残っている中で収穫をする機会が多かったです。生育を間に合わせようと、追肥もいつも以上に行いましたが、気温が上がらないことにはその効果も低く、霜害で葉先の状態も悪く、農人一同、露地栽培での野菜づくりの難しさを改めて感じています。本来の背丈の半分程度までしか育て上げることができず、そして、工場では時間がかかりますが手作業で選別し、ねぎを労りながら・無駄にしないように大切に扱っています。

また、春になると草花たちがたくさん咲き出すように、畑では“ねぎ坊主”というねぎの花の蕾が出やすい季節になります。ねぎ坊主があると、柔らかくて美味しい食感が薄れてしまうと考えているので、収穫タイミングの見極めが大切になります。少しでもお届けできるねぎを確保することに努めていきます。

とある日の農人日記。

春の準備で土づくりが活発になる時期、土の中にいる虫たちをエサに鳥が集まってきます。“海の京都”丹後では絶滅危惧種のコウノトリさんたちが畑だけでなくあちこちに。ふと見上げた空にも飛んでいるのが日常です。(山田)

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

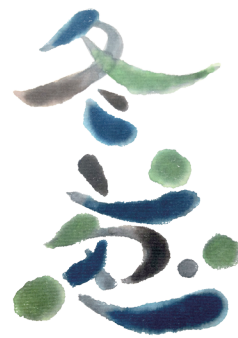
NO.178

2022年3月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP



こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。